◇ 研究展望 ◇

中国歴史地理学の過去と現在1)

呉 松弟 (翻訳: 萩野 祐)

I 歴史地理学とは何か?

歴史地理学とは, 歴史時代の人文地理と自然地理の諸 現象. およびそれらの分布の変化と発展の法則を研究す るものである。およそ人類の活動がはじまって以降の時 代は、すべて歴史時代といえよう。このようにいえば、 歴史地理学の研究内容は、現代地理学とほぼ同じものに なってしまうが、双方の差違はその研究する時代に存在 する。現代地理学が現代を研究し、多くても過去数十年 を遡るのに対して、歴史地理学は歴史時代を研究し、最 も遅ければ当代以前,ひいては昨日のことを対象とする。 ゆえに, ある学者は, 歴史地理学を地理科学の分類に属 させる。それにもかかわらず、歴史地理学は主に過去を 研究しており、過去の事象を考察するには必ず歴史文献 に依存し、同時に過去の歴史的状況を明らかにしなけれ ばならないので、多くの歴史地理学者が歴史地理を研究 するとともに、当時の歴史についても検討を行っている。 それゆえ、ある学者は、歴史地理は歴史科学に属すると みなしている。このような認識にもとづいて、歴史地理 学は現在のところ, 中国の学問分類においては, 自然科 学の地理学の下に入れられることもあれば、人文科学の 歴史学の下に置かれることもある。 そして、中国の各種 の学界において, 歴史地理学者は地理学会に参加し, か つ歴史学会にも参加している。

地理は人類の活動の舞台であり、人類の活動が地理環境の制約を受ける一方、人類の活動もまた地理環境に影響を与えてきた。今日のあらゆる地理現象は、どれも歴史時代における地理現象の変遷の結果である。よって、歴史地理を研究すれば、歴史活動における地理の舞台を明らかにして、歴史活動がいかに地理の舞台の制限を受け、逆にそれに影響をおよぼしたかを理解できるだけでなく、過去の地理環境の考証・復原をとおして、地理現象の発展と変遷、およびその後世に対する影響を追究することもできる。

Ⅱ 中国歴史地理学の形成と発展

中国歴史地理学は伝統的な沿革地理に由来し、1840年 以降に西洋地理学の影響を受けた後、現代の歴史地理学 へと展開しはじめ、20世紀前半には正式に学科が成立し た。

さまざまな形式で各地の自然地理と人文地理の現象を 記録するのは、中国古代の学者の伝統の一つである。こ の伝統は、少なくとも戦国時代に成立した『尚書』禹貢 篇まで遡ることができる。班固『漢書』より、歴代正史 のほとんどが「地理志」(「郡国志」・「州郡志」・「地形志」 などとも称す)を設け、当代と前代の行政区域の沿革、 およびその他の人文地理と自然地理の現象を反映してき た。それ以外にも、南北朝時代の酈道元『水経注』や、 唐宋以降に編纂が慣例化した全国地理総志と地方志. 宋・王応麟『通鑑地理通釈』、明・顧祖禹『読史方輿紀要』 などの地理書,『大唐西域記』・『松漠紀聞』といった旅 行紀などが、各地の地理現象の記録に精力を注いでいた。 あるものは当代の地理現象を記すだけであったが、ある ものはすでに失われた地理現象を考証・探究していた。 これらのすでに失われた地理現象に対する考証と追究 を, 人びとは「沿革地理」と称した。沿革地理は歴史学 の一要素であり、沿革地理を記録あるいは研究する主要 目的は、人びとが史書を閲読する際に特定の空間概念を 提供し、それによって各地の地理的な差違を理解させる ためである。清代になると、乾嘉学派の学者の努力によ って、沿革地理学の成熟は新たなピークに達した。

沿革地理学は、歴史地理学と同一ではない。歴史地理学の研究対象は、歴史時代の主に人の活動によって発生あるいは影響したあらゆる地理的変化であり、実際に地理学の各分枝を含んでいるが、沿革地理学の研究範囲は、大部分が歴史上の行政区域と領域、および地名・水路の変遷などに限られる。歴史地理学の研究目的が、歴史現象を復原する以外に、その特徴と発展・変遷の法則や、後世への影響を探究することである一方、沿革地理学は、

基本的に地理現象の描写と復原にとどまり、主に歴史学とその他の学問に対して空間方位と地理概念を提供するのみである。このようにいえば、沿革地理研究は歴史地理研究の初歩にすぎず、最終目的ではない。研究目的が異なれば、学問の性質にも差違が生じるのである。

中国の伝統的な沿革地理学が現代地理学に向かうとい う学術的な転換は、西洋学問の深い影響下で成し遂げら れた。19世紀はじめ、西洋地理学は、古代地理学の半科 学・半文学という状態を脱却し、近代地理学へと向かっ ていった。宣教師の努力を通じて、西洋地理学を紹介し た漢文の小冊子が、ほどなく南洋・広州・福州・寧波・ 上海などで刊行された。中国の知識人のうち、真っ先に 世界に目を向けた先進的な人びとは、西洋地理学の知識 を吸収することに精力を注ぎ、魏源『海国図志』や徐継 畬『瀛環志略』のような、世界各国の自然と人文地理の 状況を紹介した著作を出版した。20世紀になった前後, 熱心に地理を研究した数人の知識人が、西洋の方式を模 倣して地理学学会を設立し、西洋の知識体系と方法を用 いて近代地理学と中国地理を教授しはじめた。1902年, 清朝政府は『欽定学堂章程』を頒布し、全国の高等学堂 に中外輿地課, 中小学校に地理課程を設けることを規定 した。1909年、張相文が中国地学会を発起・設立し、翌 年には地理の専門的な刊行物『地学雑誌』を創刊した。 ここまでに、新たな知識を共有する基盤が、しだいに地 理学を検討する学者のなかに形成されていったのであ る。

20世紀のはじめになると、顧頡剛などの学者の努力をへて、「歴史は地理を背景にすべきであり、地理は史実をもって裏付けとしなければならない」という見解が、すでに一部の学者の脳裏に深々と植え付けられていた。1901年から1904年にかけて、日本の近代学制が紹介されるにつれ、「歴史地理」という学問の名称が中国に入りはじめた²⁾。1923年、張其昀がフランスの著名な学者ジャン=ブリュンヌとカミール=ヴァローの名著『歴史地理学』の主な内容を抄訳して、『史地学報』第2巻第2期に発表し、「歴史地理学」に対して現在とほぼ似通った解釈を行った。

伝統的な沿革地理学が現代的な意味での中国歴史地理学に転換する過程で、禹貢学会の設立と『禹貢』半月刊の創刊は、最も重視すべき象徴的な出来事であり、著名な学者・顧頡剛は、中国歴史地理学の開祖と称するに足りよう。1920年代より、彼は厦門大学や中山大学・燕京大学・北京大学において、「尚書研究」(禹貢篇の検討が中心)・「中国古代地理」・「中国古代地理沿革史」などの課目を開き、彼の大学院生であった譚其驤も卒業後、輔仁大学で「中国古代地理沿革史」を開講した。1934年2月、顧頡剛と譚其驤の発起によって、燕京大学・北京大学・輔仁大学という3大学の教員と学生を中心として、禹貢

学会準備会が立ち上げられ、同年3月には『禹貢』半月刊の出版がはじまって、顧・譚の両人が主編を担当し、当時の中国歴史地理に関する論文を掲載する主要な刊行物となった。1936年5月、正式に禹貢学会が誕生し、3年目には会員数が400人以上に達していた。1935年の第3巻より、『禹貢』に「The Chinese Historical Geography」 --- すなわち「中国歴史地理」 --- という英文タイトルが付された。

1953年には、一部の大学の歴史学部の課程において、 「歴史地理」がすでに「沿革地理」に取って代わっていた。 まもなく、北京大学では、地理学部において率先して歴 史地理専攻の大学院生を募集しはじめた。1960年代中頃 になると、歴史地理の研究機関と専門人員がほぼ一定の 規模を有しており、一つの学問として学界の承認を得て いた。1979年6月、歴史地理学界は西安で、建国以来は じめての全国的な学術会議を開催し、会上、歴史地理専 門委員会の設立と, 歴史地理専門刊行物の創刊を決定し た。譚其驤(1911~1992年)・侯仁之(1911~)・史念海 (1912~2001年)は、この学問分野の主要な創始者として、 自身の努力を通して歴史地理学に奥深く詳細な研究成果 を提供しただけでなく、多くの専門的な人材を育て上げ、 上海・北京・西安という3つの研究の中心を築いた。譚 其驤・侯仁之は、1980年に中国科学院地学部の学部委員 (後に院士と改称) に選ばれ、彼らの傑出した研究成果 と中国歴史地理学という学問分野が、中国社会科学界に 公認されただけでなく、中国自然科学界の公認も得たこ とを示した。

ここ10年来,中国歴史地理学はかなり迅速な発展を遂げている。それは主に以下の3方面に体現されている。

第一に、研究グループの急速な拡大である。以前からあった復旦大学と陝西師範大学の歴史地理研究所、北京大学の歴史地理研究中心と中国社会科学院の歴史地理研究室以外に、暨南大学・西南師範大学などにも新たな研究機関が設置された。その他、中国科学院・中国人民大学・浙江大学・武漢大学・雲南大学・湖南師範大学などの10数校に、専門の研究者がいる。歴史地理の専門刊行物として、復旦大学が出版する『歴史地理』と、陝西師範大学が出版する『中国歴史地理論叢』がある。また、中国の関連学術雑誌と各大学の学報にも、しばしば歴史地理の文章がすすんで発表されている。

第二に、学術研究、とりわけ人文科学の研究が全面的に進展し、多くの重要な成果が出されたことである。中国歴史地理の研究では、これまでずっと古きを重んじて新しきを軽んじる傾向があり、古代に対する研究が重視されて、近代に対する研究はかなり遅れていた。近代は古代から現代へと向かう中間段階で、近代の研究をおろそかにすると、古代からの発展の結果を知る方法がなく、必然、現代に対する認識にも影響するであろう。この状

況を変えるために、前世紀末より、復旦大学歴史地理研究所などの一部の研究者は、近代の西洋文化と言語が中国に与えた影響や、中国現代化の空間プロセス、中国近代の移民と人口および上海の都市発展などの研究に力を注ぎ、どれも一定の影響を生み出している。歴史地理研究が古代を重んじて近代を軽んじる状態は、力強く修正されはじめたのである。

第三に、GISなどの科学研究の新たな方法が採用され、 あわせて学際的研究を推し進めることに努力した点であ る。復旦大学歴史地理研究所では、2000年にアメリカ・ ハーバード大学などと協力して,「中国歴史地理信息系 統(CHGIS)」の研究に従事した。このプロジェクトは、 地理情報システムという現代技術を駆使して, 歴史地理 の時系列の特徴、従属関係の特徴、継承関係の特徴をも とに、データモデルとデータベースのリレーショナルス トラクチャーを設計し、また基礎データ地図ブラウザ、 地名検索ウェブのユーザーインターフェースを開発する ものである。すでに完成した3期データは、ハーバード 大学のホームページと復旦大学歴史地理研究所の「禹貢 網」で公開されており、無料で地名検索と基礎データの ダウンロードが可能である。歴史地理は、周辺学問とし て現代地理学と交差するだけでなく、その下位にあるさ まざまな分野もそれぞれ関連する学問と交差しており, たとえば、歴史経済地理学は歴史学・地理学・経済学と 交わっている。それゆえ、歴史地理がさらなる発展を得 ようとするならば、交差する学問に学ぶことも、歴史地 理が進展を続けるための重要な手段であるにちがいな い。この点に関する作業は鋭意努力中であり、近い将来. これまでの研究手段・方法と異なるような重要な成果が あげられると信じている。

Ⅲ 歴史地理研究の主要な学問分野 と代表的な成果

歴史地理研究の内容はきわめて広範で、時間は前後5000年、空間は縦横1,000万km²に近い範囲内で発生した事柄を扱うともいえ、およそ地理と関係したものはすべてその研究対象となる。ひいては歴史地理とそれほど密接な関係はないが、関連する地理を研究するうえでまず検討しなければならないような課題、たとえば人口史・経済史なども例外ではない。以下、いくつかの分野における研究成果を簡単に紹介したい。

(1) 「歴史人文地理」

1. 「歴史疆域政区」

この分野では中国歴史上の領域と行政区域の変遷を研究するが、そこには歴代王朝の領域範囲や首都、各周辺

民族の活動空間、歴代行政区域の名称と機構・設置の状況も含まれる。

代表的な成果は, 譚其驤が主編した『中国歴史地図集』 である。この地図集は、数十名の学者が相次いで編集作 業に参加し、30数年もの歳月がかけられて完成した。全 部で8冊あり、20の時代区分、304幅の図を有して、時代 は、古くは原始社会から、新しきは清末まで反映し、空 間範囲は、歴代中原王朝の境域だけでなく、辺境民族の 政権が管轄した地域をも含んでいる。内容は領域・行政 区域を中心とし、考証できうるあらゆる県の地名と、県 以上の行政単位および境界線を収録し、また一部の県以 下の重要な地名も載せている。その他に、山脈・長城・ 要塞・水陸の関所などと重要な交通路、歴代の河川・ 湖・海岸の変遷についても、できるかぎり科学的な方法 によって表し、記載する地名は7万以上に達している。 この地図集が出版されると、全世界の学者が中国の歴史 を研究する際,空間的位置を研究し,地理分析を進める うえで、これ以上ない貢献をしたのである。『中国歴史 地図集』という画期的な大著の他、各地で出版された『北 京市歴史地図集』・『中国史稿地図』・『中国近代史稿地図 集』・『太平天国歴史地図集』・『広東省歴史地図集』・『西 安市歴史地図集』・『上海歴史地図集』・『山西歴史地図 集』も、さまざまな専門と地域の研究あるいは授業にお ける需要を満たしている30。

領域の研究は、すでに西北部・内蒙古・東北地方・チベット・雲南・台湾・海南島・釣魚島・南海諸島などにもおよんでいる。統一王朝と分裂時代の領域だけでなく、ひいては辺境民族が建てた主な地域政権の領域、辺境民族の主要な活動範囲まで、さまざまなレベルの研究が存在する。多数の論文以外にも、『中国西南歴史地理考釈』・『中国西南辺疆変遷史』・『内蒙古歴史地理』・『東北歴史地理』といった価値のある専門書が出されている4。

行政区域研究においては、王仲犖『北周地理志』が『周書』の「地理志」の欠如を補い、周振鶴『西漢政区地理』が清代の乾嘉学者の研究にもとづいて、前漢時代の複雑な行政区域の変化の様相を全面的に表した。その後、後漢と唐代の行政区域や、唐代の羈縻府州、明代の総督巡撫の管轄区域、および明・清・民国における行政区域の沿革の状況などを記述した著作が出版された。その他、「中国歴代行政区画」というタイトルもしくは省・市ごとの歴史的な行政区域の地理に関する著作および多くの論文もある50。

2. 「歴史人口地理」

歴史は人類が創造したものであるため、各時代の歴史的状況を理解するためには、まず歴史上の人口を把握する必要がしばしば生じる。歴史人口と歴史人口地理の代表的な著作として、1997年出版の葛剣雄主編、葛剣雄・

呉松弟・曹樹基編著『中国移民史』6巻があり、このなかでは全国的な規模で先秦から近代までの人口の変移を検討している。また、2001年出版の葛剣雄主編、葛剣雄・凍国棟・呉松弟・曹樹基・侯楊方編著『中国人口史』6巻も、代表的な著作としてあげられる。中国の歴史研究と歴史地理研究にとって重要な意味をもつ移民史と人口史の問題は、ここにいたってかなり全面的な研究成果を得たといえよう6。

3. 「歴史経済地理」

歴史経済地理には、歴史時代の人類の経済活動における空間分布の差違を研究し、そこには農業・工業・商業・交通などの分野が包含される。現在までの代表的な研究者として史念海があげられ、彼の『河山集』(1~5集)におさめられた各書では、水利と農業、手工業、経済都市を含む、盛唐以前の黄河流域と長江流域における経済の変遷について、かなり詳細な論述を展開している。その農業地理研究に対する貢献は突出しており、1982年以降、彼はまた、大学院生が歴史上の各省区もしくはある時期の農業地理の総合的な特徴について考察するのを指導し、あわせて14名の修士と16名の博士が歴史農業地理を自身の学位論文のタイトルに選んでいて、その空間範囲は中国の大部分を包括している。これらの論文の大部分が出版されており、この基礎上に農業地理を継続して研究しているものもいる⁷。

農業地理と比べて、商工業地理の研究成果はめだって少なく、限られた数篇の論文が、魏晋南北朝と唐代の鉱業、古代製紙業の分布、明清時代の両淮地域における製塩業の盛衰、元代の商業地理、および宋代の東南沿海部における対外貿易港・輸出物資と泉州港の繁栄の主要な原因といった問題を検討するのみである⁸。

歴史交通地理の研究については、香港の学者・厳耕望が最も大きな貢献をしており、彼の著作である『唐代交通図考』5巻は、引証が広範でありながら、考証が緻密で、唐代の主要な各交通ルートに関する言及は、当時の交通を考察する際に欠かせないものとなっている。その他の学者の研究は、主に国内の主要交通路・シルクロード・海上交通などの問題に集中しており、鄒逸麟・王文楚・辛徳勇・黄盛璋・藍勇・楊正泰・李東華などが重要な成果をあげている⁹。

歴史時代の経済活動は、人口・生産手段・生産技術・ 地理的位置・自然環境と資源・国内外の交流、ひいては 政治・文化など、多様な要素が作用した結果であり、人 口・農業・交通などの歴史地理の分野は、往々にしてた だ社会経済の発展のある側面を反映するだけで、全体的 なものではない。それゆえ、地域経済の発展の基本的特 徴、および経済活動における人と土地との関係を総合的 に考察する必要が生じ、それこそがまさに歴史地域経済 地理なのである。1980年代より、歴史地域経済地理の研究が重視されはじめ、呉松弟は宋代東南沿海部の丘陵地域における経済開発に関する論文で、経済発展に対する地理条件の影響を強調し、藍勇は『歴史時期西南経済開発与生態変遷』において、人びとの経済活動が西南部の生態環境に対して不利な影響を与えたことを重点的に検討した。また、明清代の徽州商人と皖南・淮南地域経済に関する王振忠の研究や、魏嵩山主編『中国江南区域開発研究叢書』に収められた太湖地域・両湖平野・浙江省・鄱陽湖平野・江淮地域の地域開発に関する研究は、どれも歴史地域経済地理研究の成功例に入れられよう¹⁰⁾。

かつての歴史地理研究は古代を重んじており、1840年 以降の近代歴史地理研究の論著は非常に少なかったが、 経済地理においても同様な状況であった。しかし、近年 来. 近代歴史地理の研究も重視されるようになった。経 済地理においては、港湾ー後背地と中国近代化の空間プ ロセスに関する呉松弟・戴鞍鋼の研究が、港湾一後背地 という近代からはじまった中国近代化の空間プロセスの キーポイントとなる要素をとらえ、先進的な生産力が主 に沿海部に上陸した後、交通ルートに沿って広大な内陸 地へと広がっていき、ここから中国社会に巨大な変化を もたらした100年にわたるプロセスが生じたと考察した。 呉松弟は1999年より、樊如森・陳為忠・唐巧天・毛立坤 など10余名の大学院生を指導し、それぞれ大連・天津・ 青島・漢口・重慶・鎮江・寧波・福州・広州などの港湾 -後背地関係と近代化の空間プロセスにおける重要な問 題や、香港・上海両大都市の中国近代化に対する指導的 作用について、深く掘り下げた研究を行っている。彼ら は、前後2度にわたる国際学術研究会を開催し、『港口一 腹地和中国現代化進程』(2005年会議論文集),『中国百 年経済拼図:港口城市及其腹地与中国現代化』(呉松弟 主編, 戴鞍鋼・林満紅副主編), 『発展与落差――近代 中国東西部経済発展進程比較研究』(戴鞍鋼著) などの 著作と70余篇の学術論文を出版した11)。

4. 「歴史都市地理」

都市は人類の最も重要な集合居住地で、人類の文明が最も集中する場所である。侯仁之は、1949年以降に現代科学の方法で歴史都市地理を研究した創始者で、彼の一連の論文は、北京の集落の出現と建都の過程、および地理的特徴・街道の配置・園林の分布・水源の開発・宮廷広場の変遷などの重要な問題を詳細に検討し、これらの研究では今にいたるまで右に出る者がいない。ここ20年ほど、歴史都市地理研究はかなり急速に発展しており、それはまず、古都――中国古代の最も重要な都市の研究に表れた。たとえば、陳橋駅主編『中国六大古都』では、西安・洛陽・開封・北京・南京・杭州などの古代都城における歴史地理の状況を論述した。譚其驤は、鄴(安

陽)の古都としての重要性が杭州に劣るものではないと考えて、「七大古都」の見解を提示し、その後、陳橋駅もまた『中国七大古都』という著作を出版した。1983年、古都を研究する学者たちが中国古都学会を設立し、論文集である『中国古都研究』を不定期に刊行するようになった。その他、古都に関する著作も、現在までに数部が出版されている¹²⁾。

1980年代以降,市鎮研究が歴史都市地理研究の新たな重点となった。関連論著では,市鎮の初期段階である宋代の草市鎮を追究するものや,明清の大発展時期の江南市鎮を詳細に検討するもの,さらには江南市鎮の近代における変遷を分析するものなどがみられる。七大古都と市鎮の研究の他,上海・広州・成都・武漢・瀋陽・江陵・南陽・紹興・承徳・仏山などの大中都市についても多くの研究があり,その考察内容は,都市の起源・類型・分布・機能・配置・都市間の比較などにまでおよぶ。そのうえ,研究対象は,単一の都市から,ある都市群もしくはあるタイプの数都市に広がっている。王妙発は,先史時代の集落から早期の都市にいたる黄河流域の集落の発展に対して,歴史地理の角度から詳細な考察を行っている¹³⁾。

5. 「歴史文化地理」

歴史文化地理は、歴史時代の文化現象の空間的発展と分布を研究する。歴史文化地理研究の誕生と発展は、ここ20年の歴史人文地理研究において、最も注目に値する重要事の一つであろう。周振鶴・游汝傑『方言与中国文化』は、中国の方言の形成と発展の歴史背景やその中国文化に対する影響について論述し、多くの発見があった。その後、周振鶴は歴史文化地理学を多方面から検討して、秦漢代の宗教地理と風俗地理、現代漢語の方言地理および近代外来語の流入などに関して多くの研究成果をあげ、中国の歴史文化地理研究における最も主要な専門家となった。1990年代より、周振鶴は多数の大学院生を指導して、いくつかの省の歴史文化地理を総合的に研究しており、その範囲は湖南・陝西・浙江・福建・山西などにおよび、すでに数本の論文も出されている140。

湖南・湖北・西南部・広東の歴史文化地理においては、張偉然・藍勇・司徒尚紀などが自著を出版している。 盧雲『漢晋文化地理』は、中国で最初に全国を研究対象 とし、文化地理を時期区分して系統的に論述した著作で、 漢晋時代の学術文化地域、海岸宗教文化帯、婚姻形態の 地域分布、俗楽の地域と雅楽の中心などの変遷を詳細に 考察している。王子今・程民生も、秦漢・宋代の文化現 象について地域構造を基準に検討し、各地域の文化的特 色を論じている¹⁵⁾。

(2)「歴史自然地理|

歴史自然地理は、歴史時代の自然現象を考察対象とし、 歴史地理研究の非常に重要な構成要素であって、主に歴 史的な気候・河川・海岸・砂漠・植生・自然災害などの 変化を研究するものである。

1. 「歴史気候」

徐近之は、20以上の省における歴史的な気候に関する 資料を整理し, 文煥然は, 古代の文献記録に依拠して, 秦漢代の黄河中下流域の平均的な気候を推論した。竺可 植は、長年にわたる研究成果にもとづいて、「中国五千 年気候変化的初歩研究」という一文を発表し、中国の気 候変動の基本的な法則を系統的に総括した。1970年代以 降、気候変動の歴史は、新たに起こった全世界的な環境 変化の重要な要因として、学界からさらに重視されるよ うになった。施雅風は、国家自然科学基金委員会の支援 のもと、問題に取り組む組織を結集して、気候と海面の 変化の動向と影響に関する研究で重要な成果をあげ、あ わせて3部の論文集を出版した。また, 龔高法・張丕遠・ 張瑾瑢「歴史時期我国気候帯的変遷及生物分布界限的推 移」は、3000~8000年前の仰韶文化の温暖期における中 国の気候状況を復原し、満志敏・張修桂「13世紀中国東 部温暖期自然帯的推移」は、13世紀の気候帯が北に1緯 度分だけ移動していたことを指摘しており、これらは気 候史研究の重要な進展とみなされている¹⁶⁾。

2. 「歴史河川」

中国は多くの大河を有する国家であり、黄河・淮河と いった北方の河川では、下流の流れが現在のものと完全 には一致せず、河川の決壊と河道の変化が常に深刻な自 然災害を引き起こしてきた。なかでも中国第二の大河で ある黄河は歴史上、決壊と河道の変化の様相がかなり激 しく、それゆえに河川研究の重点となった。1949年以前、 すでに多くの黄河に関する著作が存在したものの. 黄河 研究の点で最も優れた成果をあげたのは、譚其驤と史念 海であった。譚其驤は、「何以黄河在東漢以後会出現一 個長期安流的局面」という一文で、黄河中下流域におけ る農業・牧畜業の交替と発展、植生状況と下流の河道の 変遷との関係を鋭く論証し,「山経河水下游及其支流考」 と「西漢以前的黄河下游河道」において、長年不明瞭で あった先秦時代における黄河下流の変遷の問題を解決し た。史念海は、文献資料に頼るだけでなく、黄河中下流 域をくまなく歩き回って、流域の浸食と堆積の状況を調 査し,水砂運動の法則から治水に関する意見を提出した。 譚其驤主編『黄河史論叢』や鄒逸麟『千古黄河』, 水利 部黄河水利委員会『黄河水利史述要』, 中国水利学会水 利史研究会編『黄河水利史論叢』は、どれも黄河の変遷 あるいは黄河の治水についての重要な研究成果を掲載し

てきた¹⁷⁾。

大運河は中国古代の南北交通において重要な機能を果たしたが、黄河の度重なる川筋の変化は、たとえば華北の古代湖沼の消滅といったような、華北平原の自然環境の変化を形成してきた。歴史地理学界は、いくつかの問題や華北平原の古河道に対して詳細な研究を行ってきており、そのなかでも鄒逸麟・馬正林・呉忱が最も優れた成果をあげている。その他、長江や沿岸の湖、淮河・黄浦江・海河・遼河・タリム河・ロブノール・青海湖・太湖・杭州の西湖・古代の鑑湖などの歴史的な変遷についても、異なるレベルの研究がなされている¹⁸⁾。

3. 「歴史海岸」

現在の中国の沿海平野は、北方の各デルタから南方の海岸平野まで、おおむね歴史時代に海と河川が運んできた土砂が堆積してできたものである。ゆえに、歴史時代の海岸線の変化と沿海平野の形成も歴史自然地理研究の要素であり、その研究は特に渤海湾西部・長江デルタに集中している。その他、華南の海岸・銭塘江の河口・福建の海岸・温州の海岸の変遷に関する研究もかなり進展している。また、趙希涛『中国海岸演変研究』は、数百件以上のC14測定資料やその他のデータをもとに、中国のほとんどの海岸の歴史的変遷を検討している¹⁹。

4. 「歴史砂漠」

乾燥地域と半乾燥地域の砂漠化の問題が日々深刻になってきているため、砂漠の変遷もまた、歴史自然地理学の研究対象になっている。この研究の対象は、主にシラムレン河流域やオルドス砂漠、ウランダワ砂漠などの地域に集中している²⁰⁾。

5. 「歴史植生」

この分野は、北の黄土高原に研究が集中している。史 念海は、最大の成果をあげた専門家の一人であり、『河 山集』第2~5集に収められた重要な論文を発表した後. 朱士光・曹爾琴との共著『黄土高原森林与草原的変遷』 を出版した。彼らは、黄土高原と中国北方における生態 環境の巨大な変化および急激な悪化の主要原因は、過去 の森林破壊と非合理的な開墾や、過度の耕作などにある と結論づけた。景愛のホロンバイル草原に関する研究に おいても、彼らと同様の見解を示している。また、朱士 光は、完新世(訳者注:地質年代区分の一。新生代第四 紀末期の約1万年間で、現在までの時代)の胞子・花粉 分析の研究成果と考古学の発掘資料を用いて, 完新世中 期の自然植生の分布状況を比較的正確に復原し、我々が 人類の影響を受ける前の中国における自然植生のおおよ その様相を理解する手助けとなっている。朱士光の最新 著作『黄土高原地区環境変遷及其治理』は、以前に発表 した論文を収録しており、彼の黄土高原の植生・河川・環境に関する研究成果を全面的に反映している。1980年代以降、生態バランス・環境変化の問題がますます重視されたため、植生の変化に関する研究の対象範囲も空前の拡大を遂げて、北はホロンバイル、南は海南島にまで研究がおよんでいる²¹⁾。

6. 「歴史災害」

中国は自然災害の多い国家であって、歴史上、全国各地が平穏であったという記録を探し出すのは非常に難しく、深刻な自然災害がしばしば各地に甚大な損失をもたらしてきた。それゆえ、歴史上の自然災害の分布状況や対策を検討することが、歴史地理の重要な研究内容となっている。この分野では、地震と旱魃・洪水の分布についての研究成果が特に突出している。『中国歴史地震図集』は、2700年間の中国における破壊性地震の震央・等震線・震度を地図に起こしており、今までで最も内容が完備し、最も権威のある中国歴史地震地図集であるといえよう。中央気象局が関係機関を組織して協同編纂した『中国近五百年旱澇分布図』は、現在のところ世界で最も範囲が広く、最も時期が長い旱水気候図集で、旱魃・洪水の長期変化の法則に関する研究に対して重要な意義を有している²²⁾。

(3) その他

1. 地域総合研究の成果

地理学の観点にもとづけば、地域性とは、具体的な事物が特定の空間で有機的に組み合わさる状況を表し、また地理学の特定の空間における統一性を明確にするものである。それゆえ、特定の地域社会の発展過程における人と土地との関係を検討することに主要目的があり、地理学のなかでも非常に重要な地位を占めている。陳橋駅の紹興地域に関する研究、石泉の江漢平野についての研究、史念海の関中地域に対する総合的な研究は、この分野の比較的早期の成果である。1980年代以降、各部門の歴史地理研究が進展したという基礎の上に、地域総合研究はかなり急速な発展を遂げている²³。

鄒逸麟主編『黄淮海平原歴史地理』は中国歴史地理学界において、比較的広大な一地域に対して総合研究を行った最初の著作であり、古代の政治経済の地位がきわめて重要であった地域を研究対象として、気候・植生・土壌・自然災害・河川水系・湖沼・海岸などの自然地理の要素と、人口・農業・都市などの人文地理の要素を項目ごとに考察し、さらに、これをもとに、一地域の自然地理環境と人文地理環境の歴史的な変遷過程を総合的に検討している。曾昭璇『広州歴史地理』・李并成『河西走廊歴史地理』・呉必虎『歴史時期蘇北平原地理系統研究』・徐少華『周代南土歴史地理与文化』・魯西奇『区域

歴史地理研究:対象与方法——漢水流域的個案分析』や、 謝覚民主編『人文地理筆談——自然・文化・人地関係』に 収録された各論文などは、関連地域における自然地理と 人文地理の諸要素の変化を考察対象として、総合研究の 基礎上に、地域の歴史および人と土地との関係に対する 総合的な見解を得ようと努めており、それぞれ地域歴史 地理の総合研究の重要な論著であるといえよう²⁴。

2. 歴代の地理文献と地図

歴代の地理文献と地図は、歴史地理を研究する基本資料であり、それに対する考証と補訂も歴史地理研究の主要分野の一つである。

この分野の成果は、最初に北魏『水経注』の研究に表れている。1984年から1996年にかけて出版された『水経注』の新版本と研究書は15部を数え、論文も150篇ちかく発表されて、研究の内容は、『水経注』にみられる地理学・歴史学・金石学・方言学・軍事学・文学などの多様な学問におよび、さらに版本の問題や酈道元の生涯、酈学の研究史まで含んでいた。そのなかで、『水経注』研究に最も貢献したのは陳橋駅であり、彼の専門書5部は数十年にわたる研究論文を収録し、新たな発見も非常に多く、歴代の『水経注』研究の総括かつ進歩といえよう²⁵⁾。

中国に現存する正史24部のうち、16部が「地理志」を有する。これらの地理志は、その記述の正確さと全面性によって、歴史地理の主要な研究資料の一つとなっており、多くの前代の学者が考証と注釈を行ってきた。そして、1991年、譚其驤が健在であった時に、学者の便宜を図るため、『歴代正史地理志匯釈』の編纂を開始し、2001年から、『漢書地理志匯釈』・『両唐書地理志匯釈』・『宋史地理志匯釈』・『宋史地理志匯釈』・『宋史地理志匯釈』などが相次いで刊行されている。これらの多くは、質がかなり高く、我々がさらなる研究を行う際に非常に便利である²⁶⁾。

また、『山海経』・『括地志』・『元和郡県図志』・『太平寰宇記』・『輿地紀勝』・『方輿勝覧』・『元豊九域志』・『元一統志』・『資治通鑑』 胡注・『読史方輿紀要』・『王士性地理書三種』・『徐霞客游記』といった歴史地理における重要文献が、整理・出版されている。『華陽国志』・『二十五史河渠志』・『禹貢錐指』などの名著については、かなり優れた研究がなされている。その他、譚其驤「補陳疆域志校補」・馮家昇『遼金史地理志互校』・聶崇岐『宋史地理志考異』も、古代の地理文献を考証した著名な書籍である²⁷⁾。

古代より保存されてきた地図も,歴史地理の重要文献である。天水放馬灘地図や馬王堆地図,伝世の禹迹図・ 華夷図・平江図・静江府城図・西夏地形図,および大量の明清地図に関しても,それぞれ多くの研究論文があり, さらに概説的な地図学史の専門書も数部発行されている。曹婉如編『中国古代地図集』3冊は、戦国から清代にいたる中国の古代地図を収集して、学者の研究に大いに役立っており、李孝聡は、ヨーロッパに散逸した中国古地図の状況を紹介している。王庸『中国地図史綱』は、中国ではじめて地図学の各時期における発展を系統的に論述した専門書であり、陳正祥も『中国地図学史』を著している²⁸。

3. 歴史地理の概説書

歴史地理学が大学の課目になり、社会に認められたことから、歴史地理学の各方面の研究成果を総括・紹介する概説的書籍も、時運に生じて表れた。

1982年に科学出版社より刊行された『中国自然地理・歴史自然地理』は、「中国科学院『中国自然地理』編輯委員会」という署名が付されているが、実際には譚其驤・史念海・陳橋駅の3大家が主編し、20名以上の各分野の専門家が分担執筆したものである。本書は、各著者と他の中国学者の研究成果を幅広く取り入れただけでなく、研究の範囲を拡大し、内容をさらに深め、結論をより確かなものにして、当時の中国における最高の学術水準を全面的に反映していた。

鄒逸麟主編『中国歴史人文地理』は²⁹⁾, 中国における歴史的な領域の形成,行政区域の変遷,都城の分布,人口の増加・分布・変移,農業開発とその地域的特徴,鉱工業の分布,都市の発展,交通路の変遷,商業の空間構造,歴史文化景観の形成の地理的・歴史的背景について,比較的詳しい論述を行っている。本書は21世紀初年に出版され,ほとんどの学問領域において,ここ20余年来の中国における人文地理史研究の成果と最高水準の学術をほぼ反映している。

1987年以降, 史念海・鄒逸麟・馬正林など, 長年にわ たって歴史地理を研究した老大家たちは、自己の『中国 歴史地理』あるいは『中国歴史地理概論』を出版して. 学界の研究成果をまとめただけでなく、多くの点で自ら の功績を残してきた。他に、陳代光・施和金・王育民・ 張全明などの学者も,同様の著作を刊行している。また, 復旦大学歴史地理研究所は、学界にとって歴史的な地名 を調べる際の便宜を図るべく. 『中国歴史地図集』やそ の編纂時に蓄積された資料にもとづいて、現在のところ 最も権威のある歴史地名工具書である『辞海』歴史地理 分冊, 『中国歴史地名辞典』, 『中国歴史大辞典』 歴史地 理巻の3冊を出版している。それ以外に、陳橋駅・劉南 威などは、それぞれ浙江省などの省単位の歴史地名工具 書を編纂し、さらに、杜瑜・朱玲玲編『中国歴史地理学 論著索引, 1900~1980』も, 論著の検索を行う際, 有効 的に活用できる300。

【著者注:本文は,主に呉松弟「従伝統的沿革地理学到現代的歴史地理学——中国歴史地理学発展的百年回顧」(姜義華・武克全主編『二十世紀中国社会科学・歴史巻』,上海人民出版社,2005年)294~319頁による。】

注

- 1. 近現代の中国歴史地理学の発展に関する論述として、以下の 文章も参考となる。譚其驤主編、王文楚・趙永復副主編『中国 歴代地理学家評伝』(山東教育出版社,1993年)第3巻の清代・ 民国時期の地理学者に関する評伝、鄒振環『晩清西方地理学在 中国』(上海古籍出版社, 2000年) 第6章, 陳橋駅「学論和官論 - 関於歴史地理学的学科属性」(闕維民主編『史地新論----浙江大学(国際)歷史地理学術研討会論文集』,浙江大学出版社, 2002年), 韓光輝「張其昀及其歴史地理学貢献」(同上), 徐兆 奎「"禹貢学会"的歷史地理研究工作」(『歷史地理』 創刊号, 上海人民出版社, 1981年), 馬正林「中国歴史地理学三十年」(『中 国歴史地理論叢』第1輯, 1981年), 鄒逸麟「回顧建国以来我国 歴史地理学的発展」(『復旦学報』, 1984年第5期), 中国社科院 歷史所歷史地理研究室討論, 史為楽執筆『中国歷史地理研究概 述 (1949~1984)』(『中国史研究概述』, 江蘇古籍出版社, 1987 年), 譚其驤・葛剣雄「回顧与展望――中国歴史地理学四十年」 (肖黎主編『中国歴史学四十年』, 書目文献出版社, 1989年), 葛剣雄・華林甫「二十世紀的中国歴史地理研究」(『歴史研究』, 2002年第3期), 呉伝鈞・施雅風主編『中国地理学90年発展回憶 録』附「20世紀中国地理学発展大事記」(学苑出版社, 1999年), 朱士光「中国歴史自然地理学的回顧与前瞻」(『北京大学学報』 歴史地理学専刊, 1992年)。
- 2. 侯甬堅「"歷史地理"学科名称由日本伝入中国考」(『中国科技史料』,2000年第4期)。
- 3. 侯仁之主編『北京歷史地図集』(北京出版社, 1988年, 1997年), 『中国史稿地図集』(中国地図出版社, 1979年, 1990年),『中国 近代史稿地図集』(中国地図出版社, 1984年),『太平天国歷史 地図集』(中国地図出版社, 1990年),司徒尚紀主編『広東省歷 史地図集』(広東地図出版社, 1995年),史念海主編『西安市歷 史地図集』(西安地図出版社, 1996年),周振鶴主編『上海歷史 地図集』(上海人民出版社, 2000年),劉和平・謝鴻喜主編『山 西省歷史地図集』(山西人民出版社, 2000年)。
- 4. 方国瑜『中国西南歷史地理考釈』上・下(中華書局,1987年), 尤中『中国西南辺疆変遷史』(雲南教育出版社,1987年),周清 澍主編『内蒙古歷史地理』(内蒙古大学出版社,1994年),孫進 已・王綿厚・馮永謙主編『東北歷史地理』(黒竜江人民出版社, 1989年)。
- 5. 王仲拳『北周地理志』(中華書局, 1980年), 周振鶴『西漢政区地理』(人民出版社, 1987年), 李晓傑『東漢政区地理』(山東教育出版社, 1999年), 翁俊雄『唐初政区与人口』(北京師範学院出版社, 1990年), 同『唐朝鼎盛時期政区与人口』(首都師範大学出版社, 1995年), 同『唐後期政区与人口』(首都師範大学出版社, 1999年), 劉統『唐代楊糜府州研究』(西北大学出版社, 1999年), 靳潤成『明朝総督巡撫轄区研究』(天津古籍出版社, 1999年), 牛平漢編著『明代地理沿革綜表』(中国地図出版社, 1997年), 同『清代地理沿革綜表』(中国地図出版社, 1997年), 同『清代地理沿革綜表』(中国地図出版社, 1990年), 鄭宝恒『民国時期政区沿革』(湖北教育出版社, 2000年)。
- 6. 葛剣雄主編, 葛剣雄・呉松弟・曹樹基著『中国移民史』全6巻(福建人民出版社, 1997年), 葛剣雄主編, 葛剣雄・凍国棟・ 呉松弟・曹樹基・侯楊方著『中国人口史』全6巻(復旦大学出版社, 2000~2003年)。

- 7. 史念海『河山集』(三聯書店, 1963年)。農業地理について、他に以下のような主要な論著がある。韓茂莉『宋代農業地理』(山西古籍出版社, 1993年),同『遼金農業地理』(社会科学文献出版社, 1999年),呉宏岐『元代農業地理』(西安地図出版社, 1997年),郭声波『四川歴史農業地理』(四川人民出版社, 1993年),王社教『蘇皖浙贛地区明代農業地理研究』(陝西師範大学出版社, 1999年), 襲勝生『清代両湖農業地理』(第中師大出版社, 1996年),周宏偉『広東歴史農業地理』(湖南教育出版社, 1998年), 耿占軍『清代陝西農業地理研究』(西北大学出版社, 1997年),蕭正洪『環境与技術選択――清代中国西部地区農業技術地理研究』(中国社科出版社, 1998年),李令福『明清山東農業地理』(台湾五南図書, 2002年),陳国生『明代雲貴川農業地理』(西南師大出版社, 1997年),李心純『黄河流域与緑色文明――明代山西河北的農業生態研究』(人民出版社, 1999年)。
- 8. 鈕仲勲「魏晋南北朝砿業的分布与発展」(『歷史地理』 第2輯, 1982年), 黄盛璋「唐代砿冶分布与発展」(『歷史地理』 第7輯, 1990年),李為「歷史時期中国造紙業的分布与変化」(『地理研究』, 1983年第4期), 王振忠「明清時期両淮塩業盛衰与蘇北城鎮的変遷」(『歷史地理』 第12輯, 1995年), 同「明清両代徽州塩商与揚州城市的地域結構」(『歷史地理』 第10輯, 1992年), 王頲「元代的国内商業」(復旦大学歷史地理研究所編『歷史地理研究』 第2期, 復旦大学出版社, 1990年), 呉松弟「宋代東南沿海丘陵地区的外貿港口・出口物資和泉州港繁勝的主要原因」(同上)。
- 9. 厳耕望『唐代交通図考』(台湾中央研究院歷史語言研究所, 1985年), 王文楚『古代交通地理叢考』(中華書局, 1996年), 辛徳勇『古代交通与地理文献研究』(中華書局, 1996年), 黄盛璋『中外交通与交流史研究』(安徽教育出版社, 2002年), 藍勇『南方絲綢之路』(重慶大学出版社, 1992年), 同『古代交通生態研究与実地考察』(四川大学人民出版社, 1999年), 章巽『古航海図考釈』(海洋出版社, 1980年), 楊正泰『明代駅站考』(上海古籍出版社, 1994年), 李東華『中国海洋発展関鍵時地個案研究(古代篇)』(台湾大安出版社, 1990年), 鄒逸麟「従地理環境角度考察我国運河的歷史作用」(『中国史研究』, 1982年第3期)。
- 10. 呉松弟「宋代東南沿海丘陵地区的経済開発」(『歴史地理』第7輯, 1990年), 同「宋代福建商品経済的較大発展及其与地理環境的関係」(『中国社会経済史研究』, 1988年第3期), 藍勇『歴史時期西南経済開発与生態変遷』(雲南教育出版社, 1992年)。また, 魏嵩山主編『中国江南区域開発研究叢書』(江西教育出版社)には,太湖地域(魏嵩山著),両湖平野(梅莉・張国雄・晏昌貴著),浙江省(李志庭著),鄱陽湖平野(魏嵩山・肖華忠著),江淮地域(巴兆祥・応岳林著)の5分冊がある。
- 11. 戴鞍鋼『港口・城市・腹地 上海与長江流域経済関係的 歴史考察(1843~1913)』(復旦大学出版社, 1998年), 復旦大 学歷史地理研究中心主編『港口一腹地和中国現代化進程』(斉 魯書社,2005年), 呉松弟主編『中国百年経済拼図——港口城 市及其腹地与中国現代化』(山東画報出版社, 2006年), 樊如森 『天津与北方経済現代化, 1860~1937』(東方出版中心, 2007年), 呉松弟「港口一腹地和中国現代化的空間進程」(『河北学刊』, 2004年第3期), 呉松弟・方書生「一座尚未充分利用的近代史資 料宝庫——中国旧海関系列出版物評述 | (『史学月刊』, 2005年 第3期), 呉松弟「城市型政区興起与近代中国的経済発展」(『雲 南大学学報』,2006年第5期),陳為忠「近代華北花生的運銷系統」 (『中国歴史地理論叢』, 2003年第1期), 姚永超「1906~1931年 日俄経済勢力在東北地区的空間推移——以港口・鉄路・貨運 運銷範囲的変化為視覚」(『中国歴史地理論叢』, 2005年第1期), 方書生「口岸開放与晚清経済区的形成——嶺南経験以及全国 意義」(『雲南大学学報』, 2006年第4期), 王列輝「近代"双岸 城市"的形成及機制分析」(『城市史研究』 第24輯, 2006年),

- 張珊珊「行政区劃調整与省級核心区——以清代湖北為例」(『歷史地理』第21輯,2006年),唐巧天「論晚清上海作為全国外貿中心的影響力(1864~1904)」(『中国歷史地理論叢』,2006年第2期),毛立坤「晚清時期東南沿海通商口岸対外航線与港勢地位的変遷」(『史学月刊』,2005年第12期),姜修憲「鴉片戦争前後福建省的鴉片走私与運銷」(『史学月刊』,2006年増刊)。
- 12. 侯仁之の関連論文は、後に『歴史地理学的理論与実践』に収録されている。陳橋駅主編『中国六大古都』,同『中国七大古都』は、それぞれ1983年、1991年に中国青年出版社から出版されている。
- 13. 傅宗文『宋代草市鎮研究』(福建人民出版社, 1989年), 劉石吉『明清時代江南市鎮研究』(中国社会科学出版社, 1987年), 樊樹志『明清江南市鎮探徽』(復旦大学出版社, 1990年), 陳学文『明清時期杭嘉湖市鎮史研究』(群言出版社, 1993年), 包偉民主編『江南市鎮及其近代命運, 1840~1949』(知識出版社, 1998年), 王玲『北京与周囲城市関係史』(北京燕山出版社, 1988年), 韓大成『明代城市研究』(中国人民大学出版社, 1991年), 傅崇蘭『中国運河城市発展史』(四川人民出版社, 1985年), 南京師院地理系江蘇地理研究室『江蘇城市歴史地理』(江蘇科技出版社, 1982年), 王妙発『黄河流域聚落論稿——従史前聚落到早期都市』(知識出版社, 1999年)。
- 14. 周振鶴·游汝傑『方言与中国文化』(上海人民出版社, 1986年), 周振鶴「秦漢宗教地理略論」(『中国文化』第3輯, 1985年),同「秦 漢風俗地理区劃浅議」(『歴史地理』第13輯, 1996年),同「現 代漢語方言地理的歴史背景」(『歴史地理』第9輯, 1990年),周 振鶴主著『中国歴史文化区域研究』(復旦大学出版社, 1997年)。
- 15. 張偉然『湖南歷史文化地理研究』(復旦大学出版社, 1995年), 同『湖北歷史文化地理研究』(湖北教育出版社, 2000年), 藍勇『西南歷史文化地理』(西南師大出版社, 1997年), 司徒尚紀『広東文化地理』(広東人民出版社, 1993年), 盧雲『漢晋文化地理』(陝西人民教育出版社, 1990年), 王子今『秦漢区域文化研究』(四川人民出版社, 1998年), 程民生『宋代地域文化』(河南大学出版社, 1997年)。
- 16. 徐近之『各地気候歷史記載初歩整理』(江蘇省地理研究所, 1977年編印),文煥然『秦漢時代黄河中下游気候研究』(商務印書館, 1959年),張丕遠「十六世紀以来中国気候変化的若干特徵」(『地理学報』第34卷第3期, 1979年),施雅風主編『中国全新世大暖期気候与環境』(海洋出版社,1992年),同『中国気候与海平面変化研究進展(一)』(海洋出版社,1990年),同『中国気候与海平面変化研究進展(二)』(海洋出版社,1992年),龔高法・張丕遠・張瑾瑢「歷史時期我国気候帶的変遷及生物分布界限的推移」(『歷史地理』第5輯,1987年),満志敏・張修桂「13世紀中国東部温暖期自然帯的推移」(『復旦学報』,1990年第5期)。
- 17. 譚其驤「何以黄河在東漢以後会出現一個長期安流的局面」(『学術月刊』,1962年第2期),同「山経河水下游及其支流考」(『中華文史論叢』第7輯,1978年),同「西漢以前的黄河下游河道」(『歴史地理』創刊号,1981年),いずれも後に『長水集』下編に収録。史念海「黄河在山陜之間」(『陜西師大学報』,1976年第2期),同「黄河在中游的下切」(『陜西師大学報』,1977年第3期),譚其驤主編『黄河史論叢』(復旦大学出版社,1986年)、鄒逸麟『千古黄河』(香港中華書局,1990年),水利部黄河水利委員会編『黄河水利史述要』(水利電力出版社,1982年)。
- 18. 鄒逸麟「論定陶的興衰与古代中原水運交通的関係」(『中華文史論叢』第8輯,1978年),馬正林「中国運河的変遷」(『陝西師大学報』,1978年第1期),呉忱主編『華北平原古河道研究論文集』(中国科学技術出版社,1991年),張修桂「雲夢沢的演変与下荊江河曲的形成」(『復旦学報』,1980年第2期),王文楚「試探呉淞江与黄浦江的歷史変遷」(『文匯報』,1962年8月16日),韓昭慶『黄淮関係及其演変過程研究』(復旦大学出版社,1999年),

- 張淑萍·張修桂「『禹貢』九河分流地域範囲新証——兼論古白洋淀的消亡過程」(『地理学報』,1989年第1期),賈毅「白洋淀環境演变的人為因素分析」(『地理学与国土研究』,1992年第4期),鄒逸麟「歷史時期華北平原湖沼変遷述略」(『歷史地理』第5輯,1987年),朱士光「内蒙城川地区湖泊的古今変遷及其与農墾之関係」(『農業考古』,1982年第1期),同「論内蒙古河套地区歷史時期河湖水系的変遷与土壌塩漬化問題」(『人民黄河』,1989年第1期)。
- 19. 張修桂「上海地区成陸過程概述」(『復旦学報』,1997年第1期),同「上海地区成陸過程研究中的幾個関鍵問題」(『歴史地理』第14輯,1998年),林汀水「従地学観点看莆田平原的囲墾」(『中国社会経済史研究』,1983年第1期),同「九竜江下游的囲墾与影響」(『中国社会経済史研究』,1984年第4期),曾昭璇『広州歴史地理』(広東人民出版社,1991年),呉松弟「浙江温州沿海平原的成陸過程」(『地理科学』第8巻第2期,1988年),趙希濤『中国海岸演変研究』(福建科技出版社,1984年),王前泰等「中国東部晚更新世以来海面昇降与気候変化的関係」(『地理学報』第35卷第4期,1980年),楊達源「中国東部全新海面変化的研究」(『海洋科学』,1984年第2期)。
- 20. 侯仁之「従紅柳河上的古城廃墟看毛烏素沙漠的変遷」(『文物』, 1973年第1期), 同「烏蘭布和沙漠的考古発現与地理環境的変遷」(『考古』, 1973年第2期), いずれも『歴史地理学的理論与実践』に収録。
- 21. 史念海『河山集』第2集(三聯書店,1981年),同第3集(人民出版社,1988年),同第4集(陝西師範大学出版社,1991年),同第5集(山西人民出版社,1991年),史念海·朱士光·曹爾琴著『黄土高原森林与草原的変遷』(陝西人民出版社,1985年),景愛「呼倫貝爾草原的変遷」(『歷史地理』第4輯,1986年),朱士光「全新世中期中国天然植被分布概況」(『中国歷史地理論叢』,1988年第1輯)。
- 22. 国家地震局地球物理研究所・復旦大学中国歴史地理研究所合編『中国歴史地震図集』(中国地図出版社, 1986年, 1990年),『中国近五百年旱澇分布図集』(中国地図出版社, 1981年)。
- 23. 鄒逸麟主編『黄淮海平原歷史地理』(安徽教育出版社, 1993年, 1997年第2版)。
- 24. 曾昭璇『広州歷史地理』(広東人民出版社,1991年),李并成『河西走廊歷史地理』(第1卷,甘粛人民出版社,1995年), 呉必虎『歷史時期蘇北平原地理系統研究』(華東師大出版社,1996年), 徐少華『周代南土歷史地理与文化』(武漢大学出版社,1994年), 魯西奇『区域歷史地理研究:対象与方法——漢水流域的個案分析』(広西人民出版社,2000年), 謝覚民主編『人文地理筆談——自然·文化·人地関係』(科学出版社,1999年),侯甬堅『区域歷史地理的空間発展過程』(陝西人民教育出版社,1995年)。
- 25. 陳橋駅『水経注研究』(天津古籍出版社,1985年),同『水経注研究二集』(山西人民出版社,1987年),同『酈学新論――水経注研究之三』(山西人民出版社,1992年),同『酈道元与水経注』(上海人民出版社,1987年),同『酈道元評伝』(南京大学出版社,1994年)。その他, 郗志群「最近十年来<水経注>研究概述」(『中国史研究動態』,1996年第5期)も参考となる。
- 26. 周振鶴『漢書地理志匯釈』, 呉松弟『両唐書地理志匯釈』, 胡 阿祥『宋書州郡志匯釈』, 張修桂・頼青寿『遼史地理志匯釈』は, いずれも安徽教育出版社から出版されている。
- 27. 侯仁之主編『古代地理名著選読』第1輯(科学出版社,1959年), 李長傅『禹貢釈地』(中州書画社,1982年), 褚紹唐・呉応寿整理標点『徐霞客游記』(上海古籍出版社,1982年), 朱惠栄『徐霞客游記校注』(雲南人民出版社,1985年), 任乃強『華陽国志校補図注』(上海古籍出版社,1987年),王文楚・魏嵩山点校『元豊九域志』(中華書局,1984年),周魁一等『二十五史河渠志注釈』(中国書店,1990年),周振鶴編校『王士性地理書三種』(上海

- 古籍出版社,1993年)。譚其驤「補陳疆域志校補」(『禹貢』第5巻第6期,1936年),同「渤海国志長編評校」(『燕京学報』第22期,1937年),同「遼史訂補三種」(『浙江大学文学院集刊』第3集,1942年),いずれも後に『長水集』上編に収録。
- 28. 曹婉如「華夷図和禹迹図的幾個問題」(『科学史集刊』, 1963年第6期), 譚其驤「二千一百多年前的一幅地図」(『文物』, 1975年第2期), 王庸『中国地理図籍叢考』(商務印書館, 1947年), 陳正祥『中国地図学史』(商務印書館香港分館, 1979年), 金応春等『中国地図史話』(科学出版社, 1984年), 盧良志『中国地図学史』(測絵出版社, 1984年), 曹婉如等編『中国古代地図集』(戦国~元, 明, 清の3分冊, 文物出版社, 1990~1997年), 李孝聡『欧洲収蔵部分中文古地図叙録』(国際文化出版公司, 1996年)。
- 29. 鄒逸麟主編『中国歴史人文地理』(科学出版社, 2001年)。
- 30. 史念海『中国歴史地理綱要』上・下(山西人民出版社, 1991年, 1992年), 鄒逸麟『中国歴史地理概述』(福建人民出版社, 1993年), 馬正林『中国歴史地理簡論』(陝西人民出版社, 1987年), 譚其驤・章巽等主編『辞海』歴史地理分冊(上海辞書出版社, 1982年, 1989年新2版), 復旦大学歴史地理研究所『中国歴史地名辞典』編委会『中国歴史地名辞典』(江西教育出版社, 1986年), 譚其驤主編『中国歴史大辞典』歴史地理卷(上海辞書出版社, 1996年), 陳橋駅主編『浙江古今地名詞典』(浙江教育出版社, 1991年), 劉南威主編『広東省今古地名詞典』(上海辞書出版社, 1991年), 裴淮昌主編『湖南古今地名辞典』(湖南出版社, 1993年), 朱玲玲編『中国歴史地理学論著索引, 1900~1980』(書目文献出版社, 1986年)。